

## RRS 中期目標・2022 年度短期目標の検討

### ■ RRS 中期目標(5 年先を見据えた目標)

2018 年度中期目標の設定に関しては様々な提案があり、運営会議で、

①事業で必要とされるもの、②社会的に必要とされるもの、③運営として必要なものに絞り、検討の結果、5 年先を見据え、以下のように設定したが、この約 3 年間は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、評価するには難しい部分もあるため、2023 年度も継続したい。

2018 年度に改訂し、2021 年度に作成したものを 2023 年度も継続

- ① HIV 陽性者の現在と老後を見据え、医療福祉サービス事業者への情報提供をしていく
- ② 検査率向上を目標に、年間 5,000 人に対して HIV/AIDS の情報を伝えていく
- ③ 「レッドリボンさっぽろ」の目指す社会を実現するために、認定 NPO 法人を取得する。

### ■ 2022 年度短期目標達成の評価と 2023 年度の短期目標

まず、以下のように提案をした 2022 年度の短期目標(中期目標の①~③に対応している)の達成度を、事務局で次のように評価した。全体的に 2022 年度は、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の影響が大きかった中で、目標達成に向けて活動したことを大きく評価したい。

- ① HIV/エイズを取り巻くさまざまな背景を鑑み、他団体とつなげる体制を構築していく。

→2021 年度に行った道内の保健所への電話掛けや、道内の行政機関等に冊子作成にあたる協力依頼をお声掛けした際に、当会があまり知られていない現状を痛感し、様々な団体とつながり、情報共有していく場を持つていくことが必要と考え、この目標を設定した。

2022 年度は、前年度の道内の保健所への電話掛けのお陰か、保健所から講演依頼だけではなくコンドームに関する問い合わせもあり、少しずつではあるが道内の保健所とのつながりを持つことができている。また、数年振りに SCORA 北海道や世界エイズデー札幌実行委員会と協力でき、道内の他のエイズ NGO ともつながりを持つこともできただけでなく、全国のエイズ NGO や道内の LGBT 活動団体とのつながりを持てた年であったと評価している。

- ② スタッフが参加しやすい勉強会を実施し、参加を促していくことで、「HIV/エイズに関する知識」だけではなく、「感じる力」「考える力」「伝える力」などのスキルアップを図る。

→この目標は、開設から「言葉で伝える」ということを大切にしてきたが、近年、スタッフ間での感受性を共有するような場が少なかったため、会の中で、知識的なスキルアップだけでなく、言葉の引きだしが増えるような、スキルアップの機会を大切にしたいと考え、設定した。しかしながら、各事業内で勉強会の実施はできていたものの、変わらずのマンパワー不足により、会全体での勉強会の実施が十分にできなかったと評価している。

- ③ 活動の輪を広げるために、会員数の拡大に努める。

→この目標は、これからも活動を円滑に進められ、様々な視点から活動を展開していくためにも、活動に参加できる会員を増やしていくことが大切であり、その先に認定 NPO 法人取得が考え、設定した。COVID-19 感染症の影響やマンパワー不足など、様々な背景から、活動が制限される中で、会員数の拡大に向けての大きな取り組みは出来なかったが、ヘルプスタッフ登録してくださった方もいたことを評価する。

以上のように、2022 年度の各目標の達成度を評価し、また中期目標を達成するために、2023 年度の目標を以下のように、検討した。2023 年度単年度で達成できることを念頭に置き、検討している。

- ① HIV/エイズを取り巻くさまざまな背景を鑑み、他団体とつながりを強化する。  
→2022 年度の評価を鑑み、今後も様々な団体とつながりは必要と考える。中期目標①につながる目標でもあるので、継続的につながりを絶やさないよう、引き続き他団体とのつながりを強化していきたい。
- ② 新しい予防方法の普及につなげるため、コンビネーション予防について伝えていく。  
→北海道・札幌でも PrEP を処方するクリニックができ、新しい予防方法で「PrEP」というものがあると、コミュニティの中でも浸透してきているが、「PrEP」という言葉だけが浸透するのではなく、正しい使用方法も伝えていかなければならない。また、一つの予防方法だけではなく、予防方法を複数組み合わせで行うこと(コンビネーション予防)で、HIV 感染拡大の終息を早くするという研究もあるため、まずは、PrEP の正しい知識だけではなく、コンドームの使用や U=U、定期的な検査などと併用するコンビネーション予防についても伝えていきたい。
- ③ スタッフが参加しやすい勉強会を実施し、「HIV/エイズに関する知識」だけではなく、「感じる力」「考える力」「伝える力」などのスキルアップを図る。  
→2022 年度の評価を鑑み、2023 年度も継続目標とする。各々のスタッフの感受性やレッドリボンさっぽろとしての考え方を共通認識し、これからも同じ方向に向かって、活動していけるような体制を構築していきたい。
- ④ 活動の輪を広げるための会員数の拡大に向けて、アクセスしやすい環境を整備する。  
→これからも活動を円滑に進められ、多角的な視点から活動を展開していくためにも、活動に参加できる会員を増やしていくことが大切である。そのため、公式 LINE の使用などよりアクセスしやすい環境を整える必要があると考える。

以上の 2023 年度の短期目標 4 つを、事務局として提案したい。

### 【2023 年度 短期目標】

1. HIV/エイズを取り巻くさまざまな背景を鑑み、他団体とつながりを強化する。
2. 新しい予防方法の普及につなげるため、コンビネーション予防について伝えていく。
3. スタッフが参加しやすい勉強会を実施し、「HIV/エイズに関する知識」だけではなく、「感じる力」「考える力」「伝える力」などのスキルアップを図る。  
(2022 年度から改定し継続)
4. 活動の輪を広げるための会員数の拡大に向けて、アクセスしやすい環境を整備する。